

編集委員会

担当理事：樋渡信夫

委員：乾 和郎、加藤勝章、岡 政志、岡庭信司、金城福則、小林正夫、島田剛延、長浜隆司、西田 博、西村元一、
平井都始子、細川 治

委員会開催：7回（内6回持ち回り）

1. 原稿依頼

- 1) 総会・大会は、主題の演者、一般演題（デジタルポスターセッション）は、座長推薦の演者に執筆依頼した。
- 2) 地方会は、主題の演者に執筆依頼した。

2. 投稿論文状況

投稿論文 14 編（採用：10、不採用：2、査読中：2）

依頼論文 28 編（採用：15、不採用：3、本人希望により取り下げ：1、査読中：9）

※前年度からの査読を継続している論文は上記数に含まれない。

※再投稿なし：3ヶ月以上再提出のない論文

3. 掲載内容について

1) 各号の掲載内容の確認は、持ち回り委員会に於いて行った。

- ・53 巻 3 号は、巻末に「第 54 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・53 巻 4 号は、第 52 回大会の会長講演を掲載した。
- ・53 巻 5 号は、巻末に「第 53 回大会（JDDW2015）プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・54 巻 1 号は、委員会報告「胃 X 線検診のための読影判定区分」「平成 25 年度全国集計報告」
「全国集計報告（JDDW2015 東京）」「平成 25 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告」を掲載した。
- ・54 巻 2 号は、第 54 回総会の会長講演を掲載した。

2) 企画テーマ「この症例に学ぶ」は、54 巻 1 号（2 編）と 54 巻 2 号（1 編）に掲載した。

4. 問題となった論文の対応について

1) 不採用、採用取消、取り下げの結果となった論文について委員長より経緯が説明された。

2) 持ち回り委員会での意見と対応について委員長より説明された。

- ・査読の段階で要旨に“対象数が記載されているか”確認をお願いしたい。
- ・「経験」は、主に記録集的内容、またはアンケート報告とし、それ以外は「原著」とする。
- ・論文種目が査読者で異なる場合は、委員長の判断で決定する。

5. 投稿規程一部改正について

53 巻 4 号で表の誤植があった。印刷会社で図表の加工が出来るよう投稿規定を改正した。

VIII. 原稿作成

3. 図表

旧	新
①図は、DOC(X)、XLS(X)、PPT(X)、JPG、TIFF、GIF、AI、EPS および PSD フォーマットのオリジナルファイルをアップロードする。なお、画像については、白黒、カラーいずれも、解像度は 300dpi 以上とし、そのまま印刷可能な明瞭なものとする（白黒希望の場合は白黒で作成、カラー希望の場合はカラーで作成のこと）。図の番号、タイトル、説明は、原稿本文の末尾および各図に付けること。	①図は、DOC(X)、XLS(X)、PPT(X)、JPG、TIFF、GIF、AI、EPS および PSD フォーマットのオリジナルファイルをアップロードする。 グラフは、アプリケーションソフト (Excel 等) で作成し画像化しない。 なお、画像については、白黒、カラーいずれも、解像度は 300dpi 以上とし、そのまま印刷可能な明瞭なものとする（白黒希望の場合は白黒で作成、カラー希望の場合はカラーで作成のこと）。図の番号、タイトル、説明は、原稿本文の末尾および各図に付けること。
②表は、Microsoft 社の Excel での作成を推奨する。表の番号、タイトル、説明は、原稿本文の末尾および各表に付けること。	②表は、 アプリケーションソフト (Excel 等) で作成し画像化しない。 表の番号、タイトル、説明は、原稿本文の末尾および各表に付けること。

6. 査読と編集について

日本医学会雑誌編集者会議（JAMJE）より「医学雑誌編集ガイドライン」が2015年3月に出された。また、世界医師会ヘルシンキ宣言が2013年10月に改訂された旨が報告された。

7. オンライン投稿・査読について

『ScholarOne Manuscripts™日本語版』を導入して約2年が経過する。査読操作に問題がないか伺った。

8. 「この症例に学ぶ」の依頼について

投稿数が増加していることから暫く依頼を休止することとなった。

9. 広告申込みについて

申込み数は近年7～9社の横ばい状況である。

10. 機関誌ペーパーレスについて

関連学会の動向、会員の意見等を踏まえて、引き続き慎重に審議していく。

11. 用語集改訂について

本学会用語集は平成9年に初版がさらに平成20年に改訂版が発刊され7年を経過している。この間、消化器がん検診の分野でも新たな方法の開発・発展や取扱いの基準作成などがなされた。

日本医学会で医学用語集の改訂が行われ、日本医学会に加盟する学会はこの用語集に準じるように推奨され、消化器病学会、大腸肛門病学会などでも用語集改訂が行われた。本学会は、日本医学会へはまだ加盟が認められていないが今後を見据えて日本医学会の用語集に準じて改訂作業を行うこととなった。2017年6月を目処に完了予定。WEB版のみとする。

12. 機関誌掲載論文数

掲載論文数 40 編（内訳：投稿 11、依頼 29）

13. 機関誌掲載内訳

号	第53巻4号～第54巻2号 (平成27年度)	第52巻3号～第53巻2号 (平成26年度)	増減△
発刊号数	6号	6号	0号
総頁数	925頁	792頁	133頁
総説	1編	1編	0編
原著	26編	18編	8編
経験	4編	3編	1編
症例報告	4編	5編	△1編
この症例に学ぶ	3編	1編	2編
Letter to the Editor	0編	0編	0編
会長講演	2編	1編	1編
特別講演	0編	0編	0編
地方会抄録	7編	7編	0編
委員会抄録	4編	4編	0編
附置研究会報告	0編	0編	0編
総会プログラム・抄録集	117頁	102頁	15頁
大会プログラム・抄録集	225頁	234頁	△9頁